



市民の声を市政に反映
杉森ひろゆき
 市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
797号 2020年3月3日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 Tel・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

神奈川
 県秦野市

議会ICT化は急務

議会運営委員会

杉森議員が委員長を務める市議会議会運営委員会は1月27-28日、神奈川県秦野市と東京都調布市を視察研修し、担当者からの説明聴取と質疑応答、関連施設見学等を実施。秦野市では「議会ICT化」について視察研修しました。

歴史と産業の町

秦野市（はだのし）は、神奈川県中西部に位置する市で、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、平将門を討伐したことで有名な藤原秀郷の子孫・佐伯経範が1030年ごろ秦野に移り住んで波多野氏を名乗った。名物の塩茹で落花生は



盛年倶楽部

水戸梅まつり

盛年倶楽部は2月企画として、水戸の梅まつり鑑賞ツアーに取組み、杉森議員も会員として参加しました。生憎の雨の中、偕楽園の桜は4分咲きといったところ、ほんのり梅の香りも楽しめました。昼食の熱燗がことの他おいしく、その後、弘道館、めんたいパークなどを訪問しました。

1921年に現在の秦野市曾屋原に軍の飛行場が建設されることとなり、10月上旬に強制的に収穫された落花生を塩水につけて茹でたところ味がよかったのが広がったという。面積103km²、人口約16.5万人を数える。

さようなら原発

3/20 全国集会

危険な東海第2原発の再稼働を止めましょう。平気でデータの書換えをする原電に、原発の再稼働を許すことはできません。

市民一人一人の声が、参加が大切です。

日時 3月20日（金）春分の日

11:00 出店ブース開店

12:30 開会

オープニングコンサート

13:30 発言

15:10 デモ出発

場所 東京亀戸中央公園

主催 「さようなら原発」一千万署名市民の会

連絡先 03-5289-8224 事務局

5段階の議会改革の取組み

秦野市の議会改革の取組みは2009年の議会活性化特別委員会の設置から始まり、①議会基本条例の制定、議会報告会の開催、②議長の任期2年制、立候補制と所信表明、タブレット端末の配布、③議場スクリーン、インターネット中継、予決算常任委員会、④対面式の質問者席の導入、議会基本条例検証委員会、議員報酬月

大型スクリーンを備えた議場



額の引き上げ、⑤議会の政策形成や政策立案に関する機能強化を図るため、「議会事務局」を「議会局」として、「議事政策課」を設置し、その下に「政策調査担当」を新設、など5段階を経てきている。

タブレット端末導入の目的

タブレット端末導入は、①議員間や議員と執行部間の情報を共有し、議会運営の効率化、②議員から市民に対して情報発信力の向上、③議会活動の利便性向上を図り、政策立案能力や発信能力の強化、④議会事務の効率化など、4つを目的としている。

2015年にタブレット導入のための予算を当初予算に計上することを代表者会議で決定し、2016年度にタブレット端末・会議システム（研修含む）180.5万円、スクリーン・プロジェクタ等周辺機器167.4万円予算で成立。ICT専門部会を設置し、3回の部会で使用基準を作成。同年6月にタブレットを配布した。

大型スクリーンに投影

さらに同部会で大型スクリーン（上図）に投影するデータについて協議し、議会運営委員会で協議し策定した。

なお、スクリーンへの資料投影は、プロジェクタとタブレットを優先接続し、議会局職員が議員から提出された資料をPDFに変換しクラウドにアップ。議員がタブレットを自身で操作し、クラウド上のデータをスクリーンに投影する方法によっている。

タブレット、スクリーンの導入以降、4年間で発言者の約半数が機器を利用するようになり、論点が明確になり議論が活発化した、情報の共有が便利になった、連絡が容易に迅速になった、などが上げられているとのこと。

敦賀原発調査資料 原電が書き換え 考えられない

日本原子力発電敦賀原発2号機（福井県）の新規制基準に基づく審査で、原電が調査資料の記述を書き換えていたことを受けて、原子力規制委員会は14日、原電にこの資料の「原本」を提出するよう求めた。審査の前提となる資料の信頼性に疑いが生じたとして、異例の対応に踏み込んだ。…

無断で上書き

問題の資料は、原子炉建屋直下の断層が活断層かどうか判断するのに必要な敷地内のボーリング調査の結果。科学的な「生データ」にあたる地層の観察記録の記述を無断で上書きしていたことを、7日の審査で規制委に指摘された。

原電は14日の審査会合で、この記述が書き換えてはいけないものだという認識はなかったと説明し、「生データを意図をもって変更したことはない」などと釈明。だが、規制委は「書き換えは考えられない。説明を聞くだけ無駄だった」などと一蹴した。

規制委は書き換えの実態を明らかにするため、原電に地質調査会社から受け取ったおおもとの資料の提出を要求。審査で示した観察記録で他にも書き換えがなかったか、なぜ記述が変遷したかについても報告するよう求めた。

（朝日新聞・福地慶太郎）



東海第
原発再稼働
資格ない